

上海では最近、日本から出張できたビジネス人が「ぼったくり」や「偽札」などの被害に遭うケースが増えています。上海日本国総領事館も、次のような注意喚起をしています。

1. 最近、日本からの出張者より、南京東路、中山公園、外滩周辺、或いは虹橋エリア等で「ぼったくり被害」に遭ったとの相談が再び増えております。

具体的には、女性二人組や客引き等から、「日本に行きたい」、「安く飲める店を紹介する」、「マッサージュ店を紹介する」などと声をかけられ、誘われるままについて行ったところ、精算時に数名の男が現れて威圧され、数万円（日本円にして数十万円）の料金を

請求されたケースが複数発生しております。私の社員もこのケース同様の手口で誘われ、真っ暗な小さい店に連れ込まれ、1ルーpee本で出ようとすると中国人の大男が現れ、威圧たっぷりに日本円換算で10万円請求され、無いと言うとクレジットカードを出せと凄まれ結局財布の有り金8万円余りを取られたそうです。警察には取り合ってもらえず警察と店がぐるみになっている事も多くあります。

2. 上海市内に滞在中の邦人から、タクシーやATM利用時での「偽札被害」に関する相談が増えています。

具体的には、(1) ATMでお金を引き出したとこ

日本人狙った被害増加

ろ、全額が偽札だった、(2)

タクシーで帰宅した際に、タクシーはアパート内に入らずに、手前の道で停車。運賃の支払

い時に、「札の端が切れている」、「偽札だ」と複数

回突き返され、運転手に偽札と交換されている

ケースもあるそうです。

「ATMでお金を引き出す際には、周りに注意し、その場で同じ札番があるかどうかを確認する」、「タクシーがアパートに入るのを嫌がる場合は特に要注意」、「1000元札で運賃を支払う際には、紙幣の下3桁の番号を覚えておく」

ことが大切です。

なお、万一被害に遭った際には、無理をせずに、そのタクシー会社とナンバーを記録した後、タクシー会社、もしくは上海市城建服務熱線（電話番号：12319）に通報してください。

日系企業の皆様、上海出張の際は、見知らぬ人や客引きには絶対について行かないようご注意ください。



ゲストハウス社長
松山英樹

中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～

著者プロフィール
ゲストハウス社長。2007年から高齢者住宅リポーンシリーズを関西圏で展開。中国市場開拓を目指し、上海に中国シニア事業会社設立。